

## 第 27 回 九州・山口地区ハイパーサーミア研究会

### 温熱療法を含む集学的治療により良好な局所制御および長期生存が得られた悪性線維性組織球腫（MFH）の 3 例

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 放射線科 鞆田義士

共同演者

放射線科 森岡文明、成定宏之、今田肇

臨床工学科 樋口優子、垣下ひかる、川崎玲、大田真

MFH 原発あるいは局所再発病変に対して、温熱療法を含めた集学的治療を行い、良好な局所制御および長期生存が得られた 3 症例を報告する。

症例 1 ; 60 歳台男性 右後腹膜原発 MFH に対して切除+放射線治療を施行、その 7 年後に再発を来し放射線治療、化学療法（etoposide, cisplatin, adriamycin）温熱療法、高気圧酸素療法を単独あるいは併用で施行、再発から BSC まで 5 年 4 ヶ月の間治療を継続できた。

症例 2 ; 60 歳台男性 右腋窩部原発 MFH に対して放射線治療に温熱療法を併用して施行（放射線治療は 70Gy）引き続き化学療法（etoposide）+温熱療法を 2 年間継続、増大傾向あり放射線再照射施行（60Gy）その後引き続き化学療法+温熱療法を 6 ヶ月間施行、発症から 3 年 6 ヶ月後に死去した。

症例 3 ; 70 歳台男性 右肘部 MFH に対して手術施行、5 年後より 3 回局所再発、両肺転移 3 ヶ、右手再発病変に対していずれも切除術施行。その後縦隔リンパ節転移を指摘され、当院にて放射線治療（60Gy）、化学療法（etoposide）、温熱療法、高気圧酸素療法を施行、良好な局所制御が得られた。

治療中縦隔下方のリンパ節転移、腋窩リンパ節転移、肺転移が出現し、同様の治療を行い良好な局所制御が得られている。

いずれの症例も温熱療法を含めた集学的治療が奏功しており、有用な治療法であることが示唆された。